

第6回 鳴瀬川総合開発環境検討委員会 技術的助言

日 時 : 令和2年11月25日(水)

1. モニタング調査計画(案)に関する事項

(1) 水環境

NO	意 見	回答及び対応方針
1	漆沢ダム治水専用化による下流河道の影響を把握するために、粒度分布を把握する必要がある。	調査の方法のほか、時期や頻度など具体的な内容を検討し、委員会に諮り進めていく。
2	水質の自動監視について、クロロフィルaを観測項目へ加えるべきと考える。	観測項目の追加については、管理設備と計画に併せて検討し、委員会に諮り進めていく。

(2) 動物及び植物、生態系

NO	意 見	回答及び対応方針
1	試験湛水による冬眠中の爬虫類等の小動物の影響について、対応を検討する必要がある。	ご指摘を踏まえ、対応方法を検討し、委員会に諮り進めていく。
2	鳴瀬川ダムの湛水により新たな生息環境が生まれ、猛禽類の餌となる小動物の生息地となる可能性があるため、これを踏まえた対応を検討する必要がある。	ご指摘を踏まえ、対応方法を検討し、委員会に諮り進めていく。
3	クマタカの繁殖はブナ、ミズナラの作柄とも関りがあるため、現地調査に加え東北森林管理局及び宮城県が実施している豊凶調査の結果も整理した方がよい。 サシバについては、周辺の水田の営農状況も把握する必要がある。	ご指摘を踏まえ、東北森林管理局及び宮城県が実施している豊凶調査の結果も整理するとともに、周辺の水田の営農状況についても把握しながら進めていく。
4	漆沢ダム治水専用化によって生まれる新たな環境下に生息する昆虫類についても、調査をしっかりと行って頂きたい。	調査の方法のほか、時期や頻度など具体的な内容を検討し、委員会に諮り進めていく。

5	<p>鳴瀬川では、サクラマスの上りが増加傾向であることから、産卵場調査を検討するとともに、実態を把握するためにサクラマスの生態（春に上りし、夏に湧水のある淵に滞留、秋に産卵）に合わせた調査を検討した方がよい。</p>	<p>サクラマスの産卵場及び生態などの実態を把握しながら進めていく。</p>
---	--	--

2. その他 今後の事業に対する意見

NO	意見	回答及び対応方針
1	<p>本事業の近傍で進められている風力発電事業は後発事業でありながら、本事業より先に竣工する。累積影響を評価する必要があるのは、本来は後発事業であるが、本事業の共用後の評価は、風力発電事業の影響を考慮して影響評価を行う必要が生じる。風力発電事業の運用開始による影響緩和の経過及び調査結果を把握しておかないと、本事業の正確な分析ができないことから、情報の対応について決めておいた方がよい。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、情報共有を図っていく。</p>